



## 東京未来大学

こども心理学部 / モチベーション行動科学部

**渡辺千歳** (わたなべ ちとせ)

所在地：東京都足立区千住曙町 34-12

<http://www.tokymirai.ac.jp/>

### Profile—わたなべ ちとせ

東京未来大学こども心理学部教授・こども心理専攻専攻長。専門は幼児期の認知発達、発達臨床。著書は『発達心理学エチュード』（共編著、川島書店）、『発達と学習の心理学』（共編著、学文社）など。



### 足立二中と金八先生

荒川の土手の人々が行き交う朝の風景、制服を着た中学生たちと先生がタイトルバックの『3年B組金八先生』という学園ドラマを覚えている方は少なくないと思います。TBS系で1979年に第1シリーズが制作・放映されて以来、舞台となった桜中学の主なロケ地は東京都足立区の足立区立第二中学校でした。この足立二中は2005年3月で廃校となりましたが、地元の要望で学校として残すことになりました。その頃の足立区には大学がありませんでした。区は大学誘致に力を入れ始め、足立二中をなるべく残す形で大学にすることになり、2007年4月に東京未来大学が開学しました。

東武スカイツリーライン堀切駅ホームから見える本学は足立区、墨田区、葛飾区の境目に位置します。北千住から程近いのですが、堀切はとても小さな駅で、周囲にはラーメン店が1軒あるだけ。コンビニも無いので初めての方には驚かれます。東京スカイツリーは距離的には近いのですが首都高速6号線に遮られて部分的にしか見えません。でもだんだんと高くなる工事の姿を見るのは楽しかったです。

もともとが中学校なのでキャンパスは狭く、講義棟の一つは中学校をリフォームして建てられました。当時の教室の面影があちらこちらに残っています。広い敷地に

公園のような庭が広がり芝生に寝転んで語り合うようなキャンパスライフを夢見てきた学生には大変がっかりされてしまいます。でも小さな大学にはそれなりの良さがあると自負しています。

東京未来大学はこども心理学部こども心理学科こども心理専攻およびこども保育専攻の2専攻で開学し、今年でようやく10周年を迎えました。初代学長は多湖輝先生、翌年には坂元昂先生が引き継がれ現在の第3代学長は大坊郁夫先生です。坂元先生は2012年、多湖先生は2016年にご逝去されましたが、新しい大学を作るために精魂を傾けてくださいました。

### 学部・専攻の紹介

保育士・幼稚園教諭を育てるこども保育専攻は小学校教諭免許状も取得できるようになり、現在はこども保育・教育専攻と名称変更しています。1学年が200名の本学を代表する専攻です。資格や免許のための科目に加えて子どもに関する心理学が色々と学べるのが特色といえるでしょう。

また2012年には心理学と経営、教育を学際的に学ぶモチベーション行動科学部が開設され、マネジメントやコミュニケーションに関心が高い学生を集めています。心理学の教員は8名を数え、中高教員免許、社会調査士、認定心理士などが目指せます。

そして私が所属するこども心理専攻は定員が80名、一般的な心理

学科の要件を備えていますので卒業時にはほとんどの学生が認定心理士を取得します。15名の専任教員のうち14名が心理学で、臨床、発達、社会、認知、犯罪などの領域を専門としています。3年生から卒論指導を目的としたゼミが始まるので、学生は1、2年生のうちなるべく多くの教員の授業を受けて自分がどの領域に関心があるのか、卒業研究でどんなことがしたいのかを考えなければなりません。2年生の秋学期はゼミ選択で悩む時期です。卒論指導は教員の負担が重いので、ゼミ割り振りは学生の希望を考慮しながらも、大きく偏ることが無いように1学年5～7名ずつ配属しています。3、4年生合同で小教室で行うゼミもあれば、学年別に研究室で行うゼミなど形態は各教員に任されています。今の若い人がそうなのか、本学の学生の特徴なのかはわかりませんが、4年生は自宅ではなくゼミ教員の研究室にノートパソコンを持ち込んで仲間と卒論を執筆する姿を多く見ます。だからゼミ教員の研究室は学生の居場所ともなっています。学園祭に合わせて研究室を訪れたゼミの卒業生は「ああ落ち着く！この席で卒論書いたんだよなあ」と感慨にふけていました。

多くの学生は『こども心理学』の名称に魅力を感じて入学してくるので、子ども特有の心の在り方を知り、子どもの心の成長を支え

るような活動ができればよいと考えているようです。自分が中学生の頃スクールカウンセラーに助けられたことや、友人や家族との関係に悩んだ経験があって自分なりに答えを出したくて進学してくる学生が少なからずいるのはどの心理学科でも同じだと思いますが、こども心理専攻では、直接的あるいは間接的に子どもの役に立つ仕事がしたいという希望を持つ者が多く、全国保育士養成協議会の試験を受けて保育士資格を取得し乳児院や保育園に就職したり、任用資格の児童指導員を活かして児童養護施設や放課後子ども教室の職員となったり、障害児者の福祉施設に勤務したりする卒業生が比較的多いことが特徴といえるでしょう。大学院は無いので臨床心理士を目指す場合など何名かは他所へと進学します。

#### 通信教育課程

東京未来大学こども心理学部は通学課程と同時に通信教育課程も開設しました。モチベーション行動科学部も同様で通学とともに通信も開設しています。通信教育課程は1年を8期に分けてインターネットでやり取りをするテキスト科目と、やはりインターネット上で配信された講義を視聴しテストを受けるメディア授業、そして堀切キャンパスに来て受講するスクーリングの3つの授業形態から成っています。通信課程としての規模は小さいのですが、入学してくる学生は仕事をしながらあるいは家事や育児、介護をしながら時間を作って学ぶ社会人がほとんどで、それぞれ強い思いを持っています。その熱意に触れられるのが対面授業のスクーリングです。土日月曜の3連休や夏冬の長期休暇にスクーリングが組まれます。3コマ連続や4コマ連続も大変です

が、朝から晩まで授業という日もあり、教員も学生もハードなスケジュールをこなします。けれども学ぶ側の意欲がとて高いので教える側も刺激されることが多く、お互いに充実した時間を過ごすことができている。スクーリング終了時、喉や身体はへへとですが高揚感で満たされるのは私だけではないと思います。

通信課程では卒業論文を書く必要はありませんが、毎年数名は大学で学んだことの集大成として卒業研究・卒業論文を選択します。仕事や家庭と学業を両立させさらにデータを収集して卒論をまとめるバイタリティにはいつも感服させられます。

なお通信課程では春と秋の年2回入学と卒業の機会があります。卒業式で卒業生が述べる答辞を通信では謝辞と呼んでいます。これがその人の人生を表していて素晴らしいのです。人間にとって学ぶことは生きることなのだ毎回実感させられます。

#### 心理学検定

本学では当時から就職活動に向けて履歴書に書けることを少しでも取り入れようということで、心理学検定の受検を勧めてきました。初期の記録として第2回心理学検定に3年生が3名受検し2名合格したということが残っています。その後については心理学検定局に受検者数を調べていただいたので紹介させていただきます。第3回からは団体申込で99名、第4回は63名が受検したことから、翌年から団体受検校となり第5回113名、第6回90名、第7回93名、第8回85名、そして2016年の第9回は76名が受検しました。今では年中行事の一つとして心理学検定が定着しています。会場が自分の通う大学ということで学生も安心感があ

るようです。なお今年はこども心理専攻とこども保育・教育専攻の両方で1名ずつ特一級合格者が出たとの報告がありました。

#### 地域とのつながり

本学の学園祭は6月に行われます。普通は学生自身が楽しむための学園祭ですが、本学では近隣の子どもたちや親子連れの方々に楽しんでもらうことをコンセプトに出店・出展がなされるので、子どもたちで大賑わいです。

また足立区にはギャラクシティこども未来創造館という施設があり、学生がボランティアとして活動しています。都内有数の大プラネタリウムやネット遊具を持つこの施設では、子ども向けの物作りや科学遊び、運動などのイベントが色々と行われています。学生ボランティアは実際にイベントに参加している子どもに教えたり、説明をしたり、準備をしたりしています。さらに学生たちがイベントを企画し実施することもあります。休日には区外からのお客様で行列ができてしまうほど人気の施設なので、おとなしいタイプのこども心理専攻学生にとってはコミュニケーション力を鍛えられる良い機会となっています。

本学は隣接する墨田区とも連携を行うなど、地域の皆様に支えられての10年でした。これからも地域とのつながりを大切にしながら、社会に貢献できる人材を育てていきたいです。



左の建物が足立二中の校舎をリフォームした講義棟